

特定非営利活動法人
クリーンオーシャンアンサンブル

事業・会計報告書

2025年度 2025.4.1
/ 2026.3.31



Clean Ocean Ensemble

Greeting ごあいさつ

海から川へ、そして世界へ。

現場・技術・データをつなぎ、海洋ごみ問題解決を次のステージへ

2025年度は、クリーンオーシャンアンサンブルにとって、活動の広がりとお組織基盤の強化が同時に進んだ一年となりました。共同代表理事2名体制のもと、現場での回収、技術開発、調査・発信、そして多様なパートナーとの連携を、これまで以上に一体となって進めています。

本年度は、香川県高松市・詰田川で河川ごみ回収装置「kawasemi」シリーズの実証を重ね、河川から海へのごみ流出を防ぐ新たな可能性を着実に広げることができました。また、海洋ごみMAPを通じた回収データの公開・活用も進み、回収活動を「見える化」し、支援や連携につなげる基盤づくりも前進しました。

さらに、モザンビークでの海洋ごみ回収装置の実証に続き、東ティモールでも海洋ごみ削減プロジェクトを開始し、活動のフィールドは地域から世界へと広がっています。再資源化においても累計再資源化量が500kgを超える節目を迎え、回収したごみを次の価値へつなぐ循環の仕組みづくりが着実に進んでいます。

これらの歩みは、日頃よりご支援くださる皆さま、現場でともに汗を流してくださる地域の皆さま、企業・自治体・研究機関・学校・国内外のパートナーの皆さまのお力添えによるものです。心より御礼申し上げます。私たちはこれからも、海洋ごみを「回収する」だけでなく、「見える化し、減らし、循環させる」仕組みを地域から世界へ広げてまいります。引き続き、温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
クリーンオーシャンアンサンブル
共同代表理事 江川裕基



特定非営利活動法人
クリーンオーシャンアンサンブル
共同代表理事 田中秀典

Contents

1 Greeting (ごあいさつ)

Vision / Mission / Value

(ビジョン / ミッション / バリュー)

Guidelines for action (行動指針)

2 Marine debris (海洋ごみ事業)

Cleanup system (回収装置)

- Intercept marine debris in rivers (川で止める海洋ごみ対策)
- System design (全体設計)
- Wings to expand the reach (両翼構造による捕捉範囲の拡張)
- Upgrade to model 002 (002モデルへの進化)
- Operations improvement (運用の改善)

Mozambique (モザンビーク)

- Urban river pilot (マプト市内河川での実証)
- Data recording (回収データの記録と可視化)
- Local handover (事業移譲と継続支援)

Cleanup activities (回収活動)

- Shodoshima (小豆島)
- Timor-Leste (東ティモール)
- Kobe (神戸)

Marine debris map (海洋ごみMAP)

- Web map design update (マップデザイン刷新)
- App update (アプリの機能改善)
- Issued certificates (海洋ごみ回収支援証明書)
- Map data records (海洋ごみMAPデータ件数)

Recycling (再資源化)

- Warehouse (倉庫)
- Products (再資源化プロダクト)

Research (調査)

- Debris analysis (海洋ごみ分析)
- Field monitoring (現地調査)
- Data processing (データ整理)
- Standardization (標準化と展開)

Results (結果)

- Cleanup activities (ビーチクリーン回収実績)
- Recycling (再資源化実績)
- Cleanup system (河川ごみ回収装置「kawasemi」回収実績)

Publications (学術論文・学会発表・コラム)

- Articles (学術論文)
- Conference presentations (学会発表)
- Science columns (コラム)

3 Environmental education (環境教育事業)

Lectures (講演・講義)

Workshop (ワークショップ)

Exhibition (展示)

Results (結果)

- Number of people reached (啓発人数)

4 Accounting (会計)

Financial statement (活動計算書)

Balance sheet (貸借対照表)

Asset inventory (財産目録)

5 Awards & media (受賞&メディア実績)

Awards & recognition (受賞)

Media (メディア実績)

Analytics (アナリティクス)



Vision

海洋ごみゼロの世界

Mission

長期的かつ持続可能な海洋資源利用の実現のため、
革新的な回収技術開発やビジネスモデルの確立、
海洋ごみの新たなビジネスモデルの構築と
海洋ごみ低減に向けた回収システムの構築に貢献する

行動指針

大胆な発想をしよう

まずは自ら手と足を動かして形にしよう

早く失敗し学びを得よう

より多くの人を巻き込んでいこう

正々堂々といこう

仲間を信頼し助け合おう

スピード経営

Value

Break through

突き抜けていこう!

Work as a Team

チームで進もう!

Respect science, try new technology

科学を尊重して、新しい技術を試していこう!

Hand down great inventions to future generations

偉大なる発明を後世に伝えよう!

Go ENSEMBLE

アンサンブルで行こう!

- 目標設定と細分化を習慣にしよう
- 現場の一次情報を尊重しよう
- 研究と開発の一体化
- 仲間に関心を持とう
- 重たい業務はチームで分担して支え合おう
- 難しい時は遠慮なく仲間に頼ろう
- その業務が得意な人を巻き込んでいこう
- 気づいたことは遠慮なく共有しよう
- 泥臭いことにも積極的に取り組もう
- シェアする文化・リアルタイムの可視化を進めよう
- リスクを恐れず、失敗を奨励しよう
- ルールは守り、都合が悪い時は正直に直ぐ伝えよう
- コミュニケーション・対話を重要視しよう
- 事実とデータに基づき判断しよう
- 優先順位をつけて行動しよう

delines for action

2

Marine debris

海洋ごみ事業



Cleanup system

回収装置



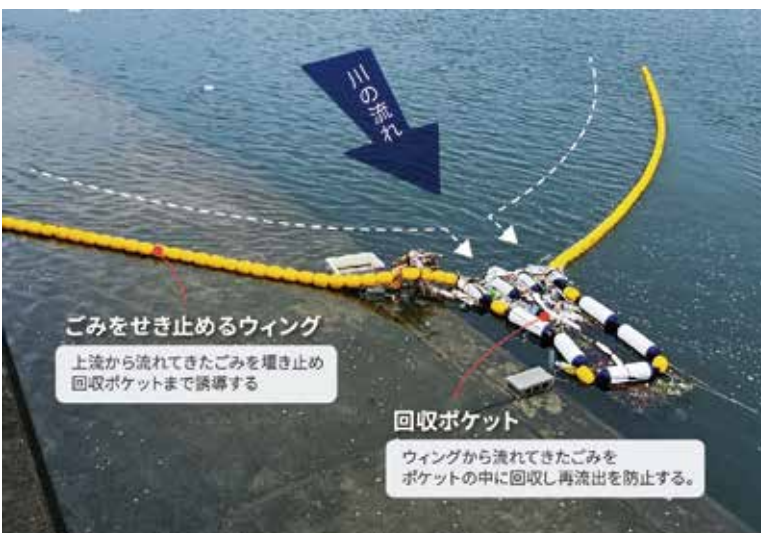
Intercept marine debris in rivers

川で止める海洋ごみ対策

海洋ごみの多くは陸上で発生し、都市部の河川を通じて海へ流出します。だからこそ、海に出た後に回収するだけでなく、流出の途中段階である河川でごみを捕捉することが重要です。

kawasemiシリーズは、海洋ごみ問題の“入口”に着目し、河川から海への流出を未然に防ぐことを目的に開発された回収装置です。

System design 全体設計



ごみをせき止めるウィング

上流から流れてきたごみを堰き止め回収ポケットまで誘導する

回収ポケット

ウィングから流れてきたごみをポケットの中に回収し再流出を防止する。

kawasemiは、上流から流れてくるごみをウィングでせき止め、水流を活かしたV字型ガイドによって中央の回収ポケットへ誘導し、その場で回収する構造を採用しています。

装置は横幅15m、回収ポケットは縦2.6m×横1.0m、水深0~50cmに対応しており、再流出を防ぎながら効率的に浮遊ごみを集められる点が特徴です。漁網やフロート、ブイなど入手しやすい素材で構成され、分解・運搬しやすい低コスト設計であることも、現場実装に向けた大きな強みです。



Wings to expand the reach

両翼構造による捕捉範囲の拡張

2025年度の第2回実証では、前回は片側のみだったごみせき止めウイングを左右両側に展開する設計へ改良しました。

これにより、従来は取りこぼしやすかった岸沿いを流れるごみまで捕捉できるようになり、設置位置の最適化や5日間の常設運用とあわせて、総回収量19.55kgに到達しました。

これは初回実証の1.80kgと比べて約10倍であり、装置改良が回収性能の向上に直結することを示す結果となりました。

Upgrade to model 002

002モデルへの進化



改良型kawasemi002では、回収ポケット入口の口径を拡大し、より多くのごみが流入できる構造へ進化させました。さらに、従来の「張る」固定方法を見直し、「遊びを持たせる」固定へ変更することで、潮位による水位変化への追従性も高めています。

これらの改良により、1日当たり最大約9kgの回収が可能となり、第3回実証では5日間で過去最高となる22.10kgを回収しました。

Operations improvement

運用の改善

2025年度は、香川県高松市・詰田川において、装置改良と現場運用の両面から検証を重ね、回収量の向上だけでなく、継続運用や社会実装に向けた課題整理も前進しました。装置を一定期間常設し、回収量だけでなく、設置位置、潮位や水量の変化、回収物の種類、維持管理のしやすさまで含めて検証することで、単なる試作ではなく、実際の河川で運用できる仕組みへと磨き上げています。

また、企業視察の受け入れを通じて社会実装に向けた対話も進めました。

運用ごとに得られた回収データは「海洋ごみMAP」で公開し、現場での成果と課題を次の装置改良や地域展開につなげています。



Mozambique

—— モザンビーク ——

モザンビークでは、マプト市内の小規模河川を対象に、河川ごみ回収装置の実証と現地運用体制の構築を進めました。住宅地を流れる河川には、生活圏から流出・投棄されるごみが集まりやすく、海へ流れ出る前の対策が重要です。2025年度は、現地の河川環境に合わせた装置運用と、パートナー団体への事業移行を通じて、海外での海洋ごみ対策モデルづくりに取り組みました。



Urban river pilot マプト市内河川での実証

マプト市内の住宅地を流れる河川で、第2回実証を実施しました。第1回のマトラ市での実証に比べて規模は限定的でしたが、同様の小規模河川は市内に多数存在しており、地域のごみ流出対策として重要な現場です。6.5時間の試験設置により、軟質プラスチック1.00kg、PETボトル0.75kg、その他ごみ0.70kg、合計2.45kgを回収しました。短時間の設置でも一定の回収成果が得られ、小規模河川における装置活用の可能性を確認しました。

実証では、河川の規模に合わせて設置方法を見直し、船舶を使わずに30分未満で設置することができました。また、回収装置のポケット部分を独立させて運用することで、必要な人員・時間・資材を抑えた運用を試みました。これにより、限られた資源の中でも継続しやすい回収方法として、低コストかつ簡易な運用モデルの有効性を検証しました。



Data recording 回収データの記録と可視化

回収したごみは現地で分別・計量し、海洋ごみMAPアプリに河川ごみデータとして登録しました。現地のカウンターパートが記録作業を担当し、特別な習熟を必要とせずに操作・登録できることを確認しました。

現場での回収活動をデータとして残し、MAP上で可視化することで、実証の成果を次の運用改善や地域展開につなげる基盤を整えています。



Local handover 事業移譲と継続支援

2024年4月に始動したモザンビーク海洋ごみプロジェクトは、2025年8月の完了に向けて、現地への自律的な移行を重点的に進めました。現地パートナーである環境NGO「AMOR」へ事業運営を移譲し、漁業組合や行政機関との連携フローを整理することで、現地主体でプロジェクトを継続できる体制づくりに取り組みました。

移行後も、日本側からオンラインで進捗確認や技術的助言を行い、資金調達や低コスト運用スキームの検討を含めて、継続的なフォローアップを行っています。

Comment / モザンビークでの活動を終えて

現地では事業継続のための資金調達が喫緊の課題となっています。そのため、現地でのファンドレイジングへの助言や、低コストで運用可能なスキームの検討など、日本側からのフォローアップを継続しています。

本事業は、クリーンオーシャンアンサンプルにとって初の海外における海洋ごみ回収装置事業となりました。縁があるモザンビークでの活動は、組織としても極めて意義深い経験となりました。

現地でのプロジェクトは一区切りとなりますが、モザンビークの美しい海を守るための挑戦は形を変えて続いていきます。

今後とも、私たちの活動にぜひご注目ください。

Até um dia!(また会う日まで!)



特定非営利活動法人クリーンオーシャンアンサンプル
副理事長兼モザンビークプロジェクトリーダー

安井 卓也

Cleanup activities

— 回収活動 —

2025年度の回収活動では、小豆島、東ティモール、神戸という異なる地域で、海洋ごみ回収活動を進めました。再資源化と調査につながる分別回収のやり方を説明したマニュアルを活用しながら、海岸での継続的な回収、海外での地域協働型の沿岸清掃、神戸での河川清掃を通じて、回収、記録、再活用までをつなぐ取り組みを広げています。

現場用簡易マニュアル

現場での回収・記録・注意事項を簡潔に整理した持ち運び用マニュアル。



詳細マニュアル

背景、事前準備、分別方法、データ整理および再資源化方法までを網羅したマニュアル。



各種マニュアルは公式サイトよりダウンロードいただけます。

Shodoshima 小豆島



小豆島では、多尾海岸を中心に市民参加型ビーチクリーンを月1回のペースで継続し、地域に根ざした海洋ごみ回収の実践を積み重ねてきました。

2025年度には、実測データにもとづく取り組みが「瀬戸内海研究フォーラム in 香川」で評価され、継続的な活動が回収の効率化や運営改善につながるモデル実証の地として注目されました。分別・計量・記録を伴う回収活動は、再資源化や研究発表にもつながり、地域共創型の海洋ごみ対策の基盤となりました。

Timor-Leste 東ティモール



東ティモールでは、2025年度に海洋ごみ削減プロジェクトを開始し、東ティモールの地域住民とともに沿岸で海洋ごみを回収する取り組みを進めました。単発の清掃にとどまらず、回収したごみのデータ化や再資源化も視野に入れ、地域経済と環境保全の両立を目指す実践として展開しています。現地の人々とともに課題を捉え、地域の中で循環の仕組みを育てていく点が、この取り組みの大きな特徴となっています。

Kobe 神戸



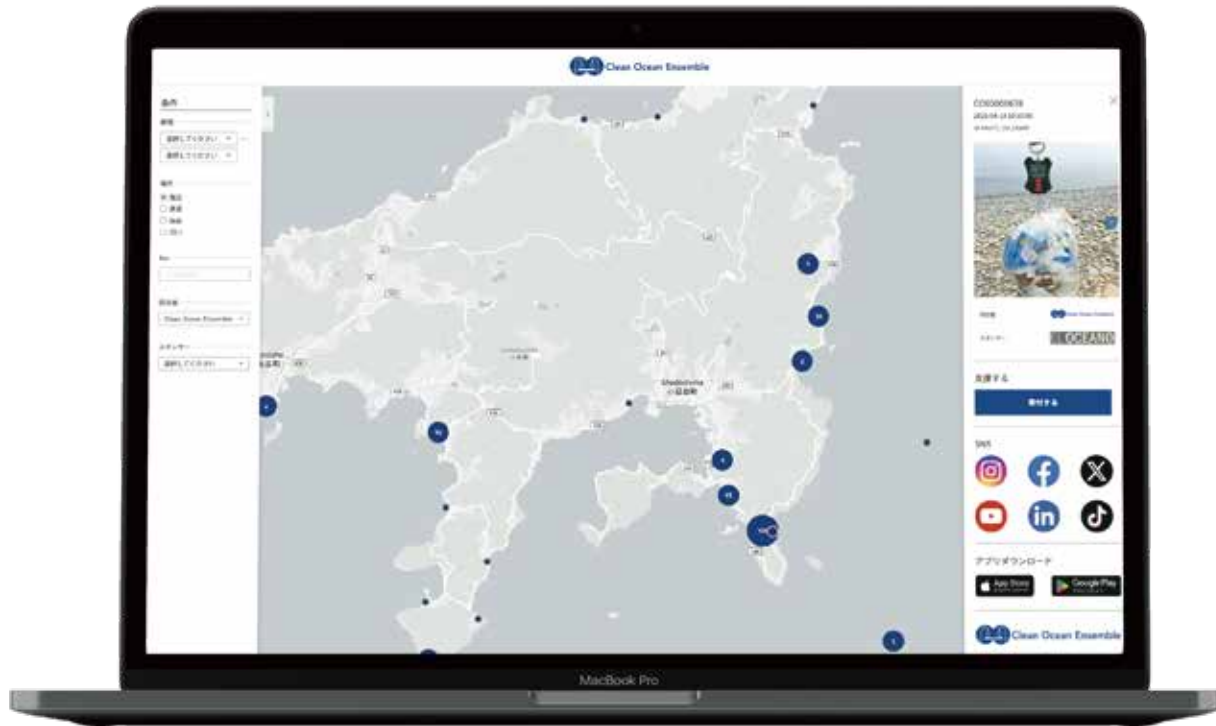
神戸では、住みびらきのお家ケレケレを拠点に、河川清掃と環境教育を組み合わせたりバークリーンを継続的に実施しました。活動では、海洋ごみ問題と河川ごみの関係を共有したうえで清掃を行い、回を重ねるなかで、内容を発展させています。単に川をきれいにするだけでなく、山の暮らしから川、そして海へとつながるごみ問題を体感的に学ぶ場として位置づけ、神戸拠点ならではの実践として育ててきました。

神戸拠点は「住みびらきのお家ケレケレ」内に開設されており、地域に開かれた環境教育・実践拠点となっています。

Marine debris map

— 海洋ごみMAP —

Web map design update マップデザイン刷新



海洋ごみMAPは、回収記録を残すツールから、蓄積されたデータを見やすく伝え、次の参加・連携・支援へつなげられるように進化しました。見た目の改善だけでなく、近接する位置情報を縮尺に応じて件数で集約表示し、拡大時には個別データを確認できる仕様を導入しています。これにより、回収データが密集する地域でも、全体傾向と詳細の両方を直感的に把握しやすくなりました。



海洋ごみMAP

App update アプリの機能改善



海洋ごみMAPアプリのアップデートを実施し、一度にアップロードできる写真の上限を30枚から99枚へ拡大しました。あわせて、アップロードした写真をリニューアルしたWEBマップ上で確認しやすくする機能も強化し、現場での記録、蓄積、共有をよりスムーズにしています。



iOSアプリ



Androidアプリ

Issued certificates 海洋ごみ回収支援証明書

2025年度は、海洋ごみ回収支援証明書を14件発行しました。証明書には、企業名、支援期間、回収量、回収場所などが記載され、紙・デジタルの両形式で発行できます。海洋ごみMAPと連動することで、支援の成果を具体的に示し、回収の見える化だけでなく、次の協賛や資金循環につなげる仕組みとして機能しています。



海洋ごみ回収支援証明書の発行件数

14件

Map data records 海洋ごみMAPデータ件数



2025年度末時点の累計回収データ件数

1,307件

Recycling

— 再資源化 —



回収した海洋ごみを「やっかいもの」から「もう一度使えるもの」へ。
回収した海洋ごみを分別し、それぞれのパートナー企業・団体と協力して
素材や製品に生まれ変わらせるプロジェクトも継続しました。
2025年度は、東ティモールでの再資源化連携もスタートしました。

Warehouse 倉庫

回収した海洋ごみを一時保管する小豆島の倉庫を活用し、回収ごみは種類別に仕分け、一時保管し、再資源化可能なものはパートナー企業・団体と連携して再資源化しています。

再資源化可能な海洋ごみは素材として活かし、残りは行政の協力で適正処理を行います。倉庫を利用した一時保管は輸送等のロジスティクス改善に貢献しています。

また、視察受け入れを行うことで、海洋ごみ問題への啓発拠点としても機能しています。



Products 再資源化プロダクト

1 Rigid plastic (硬質プラスチック)



2 Glass/Bottles (ガラス・ビン)



3 Fishing lures (釣りルアー)



4 Fishing rods (釣り竿)



5 Iron/Lead (鉄・鉛)



6 Cans (缶)



Research

— 調査 —



2025年度の調査チームの活動では、ビーチクリーンおよび河川ごみ回収装置の現場を起点に、海洋ごみの実態把握と回収手法の改善を一体的に進めました。小豆島で蓄積してきた市民参加型ビーチクリーンの知見を「瀬戸内海研究フォーラム in 香川」で発表し、ポスター優秀賞を受賞しました。

詰田川では、流速計の導入と「kawasemi」の継続実証を通じて、水量や潮位の変化と回収効率の関係を検証しました。現場で得られたデータを、実装につながる研究へと発展させた一年となりました。

Debris analysis 海洋ごみ分析

小豆島・多尾海岸を中心に蓄積してきた市民参加型ビーチクリーンのデータをもとに、漂着ごみの種類、発生源の手がかり、および回収量の傾向を分析しました。2年間、27回の回収ごみのデータから、回収効率（1人が1時間に回収するごみの重量）と運営条件の関係や、再資源化につながる分別回収の有効性を検討しました。

その成果を「瀬戸内海研究フォーラム in 香川」で発表し、ポスター優秀賞を受賞しました。



Field monitoring 現地調査

香川県高松市・詰田川で河川ごみ回収装置「kawasemi」の実証を継続し、回収量だけでなく、河川流量、潮位変化、設置条件などの現場データを蓄積しました。電磁流速計の導入により、水量データと回収量の相関分析を進める体制を整え、第3回実証では改良型「kawasemi002」により過去最高22.10kgを回収しました。

2025年度に実施した計4回・20日間の実証では累計76.55kgを回収しており、科学的根拠に基づく回収最適化と装置改良を前進させています。



Data processing データ整理



現場で得られたデータを、誰もが継続的に活用できる形へ整理することにも注力しました。

回収、分別、計量、記録、共有までを一連のプロセスとして整え、現場に依存しすぎない調査・回収モデルづくりを進めています。研究チームの発足や外部発表、マニュアル整備を通じて、海洋ごみ調査を“その場限りの活動”ではなく、再現可能な仕組みへと育てた一年でした。

ビーチクリーンや回収装置で集めた海洋ごみは、共通の分類基準に基づいて10種類に分別し、重量測定と外観撮影を行っています。実施日、場所、参加人数に加え、天候、風、潮位、流速などの環境条件も記録し、回収量や再資源化率との関係进行分析しています。

こうした基礎データを、海洋ごみの実態把握、回収効率の改善、資源循環モデルの構築につなげています。

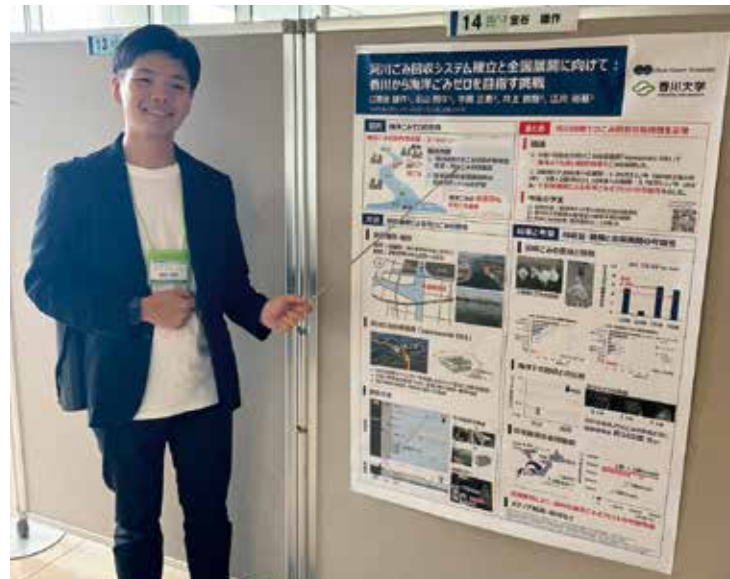


Standardization 標準化と展開

現場で得られた知見をホームページやSNSで共有するとともに、詳細マニュアルと現場用簡易マニュアルを作成し、回収・記録・整理の方法を広く共有してきました。

2025年度は調査チームの体制を強化し、論文作成、学会発表、科学コラムの執筆へとつなげる基盤を整えました。

さらに、小豆島で蓄積した実測データをもとに、参加人数や実施頻度などの実施条件に加え、再資源化までを見据えた運営方法の設計を進めています。今後は、標準スキーム化と他地域展開に向けて、現場で使える調査・回収手法として発展させていきます。



Result

結果

Cleanup activities ビーチクリーン回収実績

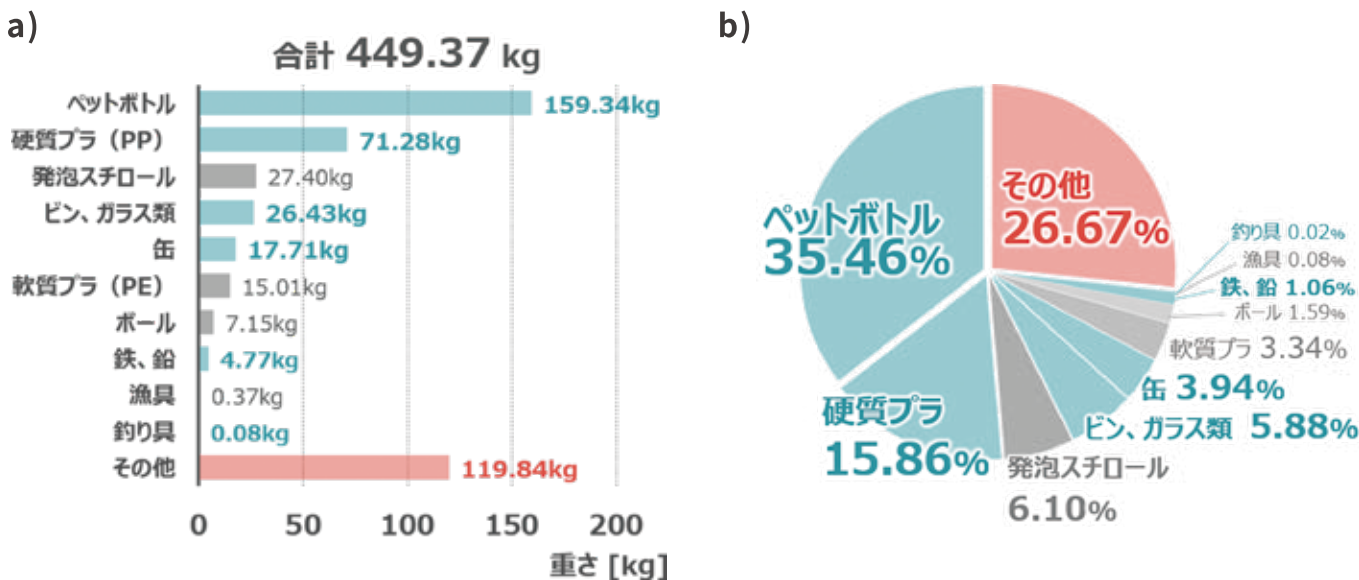


図1. ごみの種類別回収実績. 場所: 多尾海岸 (香川県小豆島), 東ティモール. 期間: 2025年4月1日~2026年3月31日.
 a) 種類別の重量. 緑色: 再資源化可能, 灰色: 分別のみ (今後再資源化の可能性), 赤色: 再資源化不可. b) 種類別の重量分率.

Recycling 再資源化実績

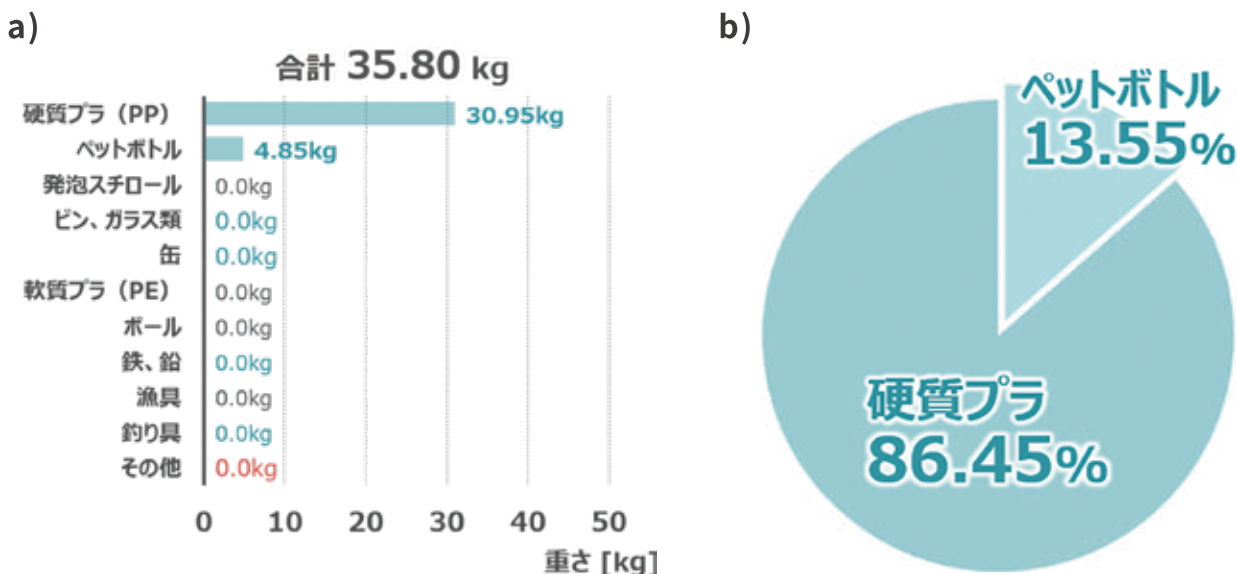


図2. ごみの種類別再資源化実績. 場所: 多尾海岸 (香川県小豆島), 東ティモール. 期間: 2025年4月1日~2026年3月31日.
 a) 種類別の再資源化重量. 緑色: 再資源化可能, 灰色: 分別のみ (今後再資源化の可能性), 赤色: 再資源化不可. b) 種類別の再資源化重量分率.

Cleanup system 河川ごみ回収装置「kawasemi」回収実績

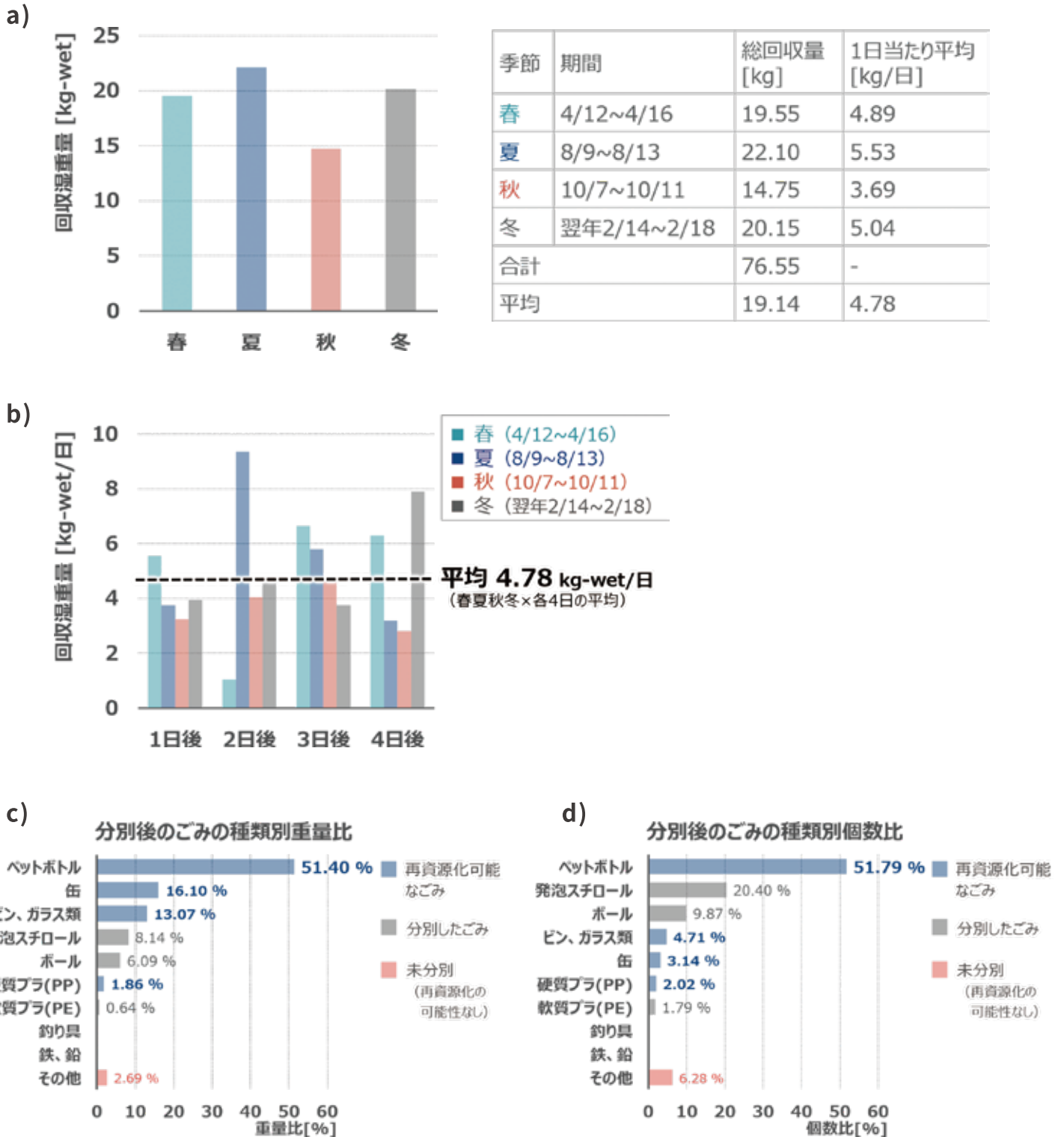


図3. 河川ごみ回収装置「kawasemi」の2025年度実証結果。場所：詰田川(香川県高松市)，期間：春(2025年4月12日～16日)，夏(2025年8月9日～13日)，秋(10月7日～11日)，冬(2026年2月14日～18日)，回収ポケットからのごみの回収頻度：1日毎。a) 各回の合計回収湿重量，b) 1日毎の回収量比較。c) 回収ごみの種類別重量比(4回分の合計)。d) 回収ごみの種類別個数比(4回分の合計)。

Publications

—— 学術論文・学会発表・コラム ——

Article 学術論文

なし

Conference presentations 学会発表

- 1) 小島友佳. 小豆島を舞台とした海洋ごみ問題解決への取り組み: クリーンオーシャンアンサンブル. 2024年度笹川科学研究助成奨励賞 研究発表会, 口頭発表およびポスター発表, ANAインターコンチネンタルホテル, 東京, 2025年4月18日.
- 2) 石山 翔午, 中國 正寿, 室谷 雄作, 井上 智晶, 横田 恵美, 江川 裕基. 効率的なごみ回収方法の探索: 小豆島の市民参加型ビーチクリーン. 瀬戸内海研究フォーラム in 香川 2025, ポスター発表, サンポートホール高松, 香川, 2025年9月8日~9日. 受賞: ポスター優秀賞.
- 3) 室谷 雄作, 石山 翔午, 中國 正寿, 井上 智晶, 江川 裕基. 河川ごみ回収システム確立と全国展開に向けて: 香川から海洋ごみゼロを目指す挑戦. 瀬戸内海研究フォーラム in 香川 2025, ポスター発表, サンポートホール高松, 香川, 2025年9月8日~9日.
- 4) 石山 翔午, 室谷 雄作, 井上 智晶, 谷本 早紀, 江川 裕基, 中國 正寿. 河川ごみ回収装置の開発: 都市河川での実証実験および全国展開に向けて. 超異分野学会 豊橋フォーラム2025, ポスター発表, 豊橋サイエンスコア, 愛知, 2025年11月29日. 受賞: オーディエンス賞 第3位
- 5) 谷本 早紀, 石山 翔午, 室谷 雄作, 井上 智晶, 江川 裕基, 中國 正寿. 海洋ごみの効率的回収に資する気象データの整理の試み. 日本気象学会関西支部第2回例会(四国地区), 口頭発表, 香川大学幸町キャンパス, 香川, 2025年12月13日.
- 6) 石山 翔午, 室谷 雄作, 井上 智晶, 谷本 早紀, 江川 裕基, 中國 正寿. 小型浮遊ごみ回収装置の開発: 二級河川での回収量評価と全国展開に向けて. 第3回 香川大学瀬戸内圏研究センター・沿岸海洋研究集会, 口頭発表, 香川大学三木町農学部キャンパス, 香川, 2025年12月25日.

Science columns コラム

- 1) 井上 智晶, 石山 翔午, 中國 正寿. 「プラスチックの種類とリサイクルについて解説!」クリーンオーシャンアンサンブル(コラム), 2025年4月18日.
<https://cleanoceanensemble.com/columns/column3/>
(閲覧日: 2026年4月3日)
- 2) 井上 智晶, 室谷 雄作, 石山 翔午, 中國 正寿. 「河川ごみ回収の最前線 — 私たちが開発した装置とその可能性について」クリーンオーシャンアンサンブル(コラム), 2025年5月27日.
<https://cleanoceanensemble.com/columns/column4/>
(閲覧日: 2026年4月3日)
- 3) 石山 翔午, 井上 智晶, 谷本 早紀, 中國 正寿. 「マイクロプラスチック回収技術の最前線」クリーンオーシャンアンサンブル(コラム), 2026年3月29日.
<https://cleanoceanensemble.com/columns/column5/>
(閲覧日: 2026年4月3日)

3

Environmental education

環境教育事業



Lectures

—— 講演・講義 ——

海洋ごみ問題を「遠い海の課題」ではなく、自分たちの暮らしとつながる身近な課題として伝える講演・講義の場づくりを進めました。

科学的データとクリーンオーシャンアンサンプルの実践をもとに、海洋ごみの現状と解決に向けた具体的な取り組みをわかりやすく共有し、学校・教育機関・企業・地域コミュニティへ学びを広げています。



Workshop

—— ワークショップ ——

神戸拠点では、海洋ごみ問題を「知る・考える・体験する」ことを軸に、座学と体験型プログラムを組み合わせたワークショップを実施しました。

海洋ごみの現状や活動紹介、海ごみクイズに加え、「暮らしのごみ」をテーマにした買い物・調理ワークショップ、「きれいな海」をモチーフにしたDIY、回収ごみの洗浄・裁断・色分けを体験する再資源化ワークショップなどを通じて、子どもから大人まで幅広い世代が参加できる学びの場を育てています。



Exhibition

—— 展示会 ——

実際に回収した海洋ごみ、写真パネル、データ資料、再資源化製品などを紹介する常設展示を神戸拠点に整えました。展示に加えて交流スペースも設け、来場者が海洋ごみ問題を「見て、触れて、話して学ぶ」ことのできる場として運営しています。

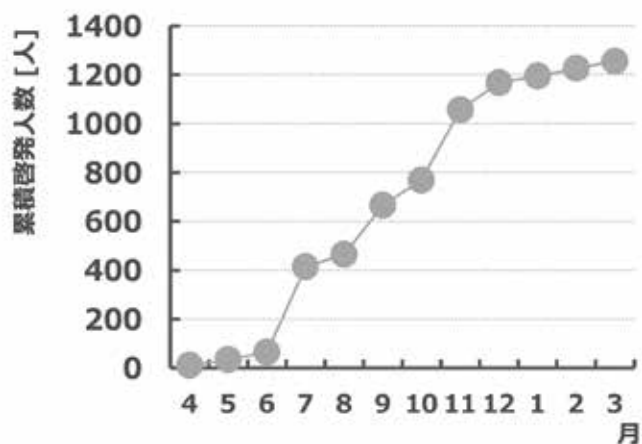
環境問題に詳しくない方でも気軽に立ち寄れる、地域に開かれた環境教育拠点づくりを進めました。



Result

結果

Number of people reached 啓発人数



2025年度の啓発人数

約 **1,255** 人

図4. 2025年度の啓発人数(2025年4月1日～2026年3月31日)



4

Accounting

会計



活動計算書

【税込】(単位: 円)

特定非営利活動法人グリーンオーシャンアンテナ

自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月31日

【経常収益】			
【受取寄付金】			
受取寄付金	8,290,261		
協賛金	(210,000)		
その他補助	(8,080,261)	8,290,261	
【受取助成金等】			
受取助成金		7,491,153	
【事業収益】			
事業収益1		240,768	
【その他収益】			
受取利息	4,044		
雑収益	27,200	31,244	
経常収益計			16,053,426
【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
役員報酬(事業)	400,000		
法定福利費(事業)	23,384		
人件費計	423,384		
(その他経費)			
業務委託費(事業)	4,264,083		
その他補助	(4,264,083)		
諸謝金(事業)	192,500		
印刷製本費(事業)	3,135		
旅費交通費(事業)	1,230,938		
車両費(事業)	121,053		
通信運搬費(事業)	29,141		
消耗品費(事業)	1,464,394		
修繕費(事業)	15,565		
水道光熱費(事業)	500		
地代家賃(事業)	315,000		
神戸拠点	(60,000)		
倉庫	(120,000)		
事務所家賃	(135,000)		
賃借料(事業)	3,000		
減価償却費(事業)	103,947		
保険料(事業)	148,208		
諸会費(事業)	45,250		
租税公課(事業)	6,000		
支払手数料(事業)	242,563		
その他経費計	8,185,277		
事業費計		8,608,661	
【管理費】			
(人件費)			
役員報酬	300,000		
法定福利費	5,846		
人件費計	305,846		
(その他経費)			
旅費交通費	6,650		
通信運搬費	101,344		
消耗品費	76,051		
水道光熱費	20,885		
業務委託費	448,782		
地代家賃	45,000		
諸会費	6,000		
租税公課	3,840		
支払手数料	275,399		
その他経費計	983,951		
管理費計		1,289,797	
経常費用計			9,898,458
当期経常増減額			6,154,968
【経常外収益】			
経常外収益計			0
【経常外費用】			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			6,154,968
当期正味財産増減額			6,154,968
前期繰越正味財産額			144,115
次期繰越正味財産額			6,299,083

貸借対照表

特定非営利活動法人グリーンオーシャンクラブ
全事業所

[税込] (単位: 円)
2026年 3月31日 現在

		《資産の部》	
【流動資産】			
(現金・預金)			
現金		48,129	
その他補助		(48,129)	
普通預金		7,691,355	
PayPay銀行		(7,212,095)	
住信SBIネット銀行		(479,172)	
PayForex		(88)	
現金・預金計		<u>7,739,484</u>	
(売上債権)			
未収金		1,280	
その他補助		(1,280)	
売上債権計		<u>1,280</u>	
(その他流動資産)			
前払費用		30,000	
その他流動資産計		<u>30,000</u>	
流動資産合計			<u>7,770,764</u>
【固定資産】			
(有形固定資産)			
車両運搬具		738,048	
軽自動車		(414,860)	
小型船舶 和船		(323,188)	
機械及び装置		376,970	
什器備品		411,919	
工具器具備品		552,080	
水中ドローン		(552,080)	
減価償却累計額		△ 1,261,573	
軽自動車		(△ 414,859)	
小型船舶 和船		(△ 323,187)	
水中ドローン		(△ 485,830)	
小型マリ流連計		(△ 37,697)	
有形固定資産計		<u>817,444</u>	
(投資その他の資産)			
出資金		50,000	
敷金		30,000	
投資その他の資産計		<u>80,000</u>	
固定資産合計			<u>897,444</u>
資産合計			<u>8,668,208</u>
《負債の部》			
【流動負債】			
未払金		325,977	
前受金		2,050,000	
預り金		△ 6,852	
報酬源泉税		(△ 9,446)	
社会保険料		(240)	
給与源泉税		(2,354)	
流動負債合計		<u>2,369,125</u>	
負債合計			<u>2,369,125</u>
《正味財産の部》			
前期繰越正味財産		144,115	
当期正味財産増減額		6,154,968	
正味財産合計		<u>6,299,083</u>	
負債及び正味財産合計			<u>8,668,208</u>

財産目録

特定非営利活動法人グリーンオーシャンアンサンブル
全事業所

【税込】(単位:円)
2026年 3月31日 現在

		《資産の部》	
【流動資産】			
(現金・預金)			
現金		48,129	
その他補助		(48,129)	
普通預金		7,691,355	
PayPay銀行		(7,212,095)	
住信SBIネット銀行		(479,172)	
PayForex		(88)	
現金・預金計		<u>7,739,484</u>	
(売上債権)			
未収金		1,280	
その他補助		(1,280)	
売上債権計		<u>1,280</u>	
(その他流動資産)			
前払費用		30,000	
その他流動資産計		<u>30,000</u>	
流動資産合計			<u>7,770,764</u>
【固定資産】			
(有形固定資産)			
車両運搬具		738,048	
軽自動車		(414,860)	
小型船舶 和船		(323,188)	
機械及び装置		376,970	
什器 備品		411,919	
工具器具備品		552,080	
水中ドローン		(552,080)	
減価償却累計額		△ 1,261,573	
軽自動車		(△ 414,859)	
小型船舶 和船		(△ 323,187)	
水中ドローン		(△ 485,830)	
小型マリ流通速計		(△ 37,697)	
有形固定資産計		<u>817,444</u>	
(投資その他の資産)			
出資金		50,000	
敷金		30,000	
投資その他の資産計		<u>80,000</u>	
固定資産合計			<u>897,444</u>
資産合計			<u>8,668,208</u>
		《負債の部》	
【流動負債】			
未払金		325,977	
前受金		2,050,000	
預り金		△ 6,852	
報酬源泉税		(△ 9,446)	
社会保険料		(240)	
給与源泉税		(2,354)	
流動負債合計		<u>2,369,125</u>	
負債合計			<u>2,369,125</u>
正味財産			<u>6,299,083</u>

5

Awards & media

受賞&メディア実績



Awards & recognition

受賞

2025年4月 2024年度「笹川科学研究奨励賞」

2025年9月 「瀬戸内海研究フォーラム in 香川」ポスター優秀賞

2025年10月 SVP東京 2025年度 投資・協働先 選出

2025年11月 超異分野学会 豊橋フォーラム2025 オーディエンス賞 第3位

Media

メディア実績

J-WAVE(2025年7月) - 「EARLY GLORY」「hummingbird SERENDIPITY CONNECTION」取材放送

西日本放送(2025年8月) - 「RNC news every」取材放送

NHK高松放送局(2025年8月) - 「ゆう6かがわ」取材放送

四国新聞(2025年8月) - 記事掲載

KBS京都ラジオ(2025年9月) - 「笑福亭晃瓶のほっかひかラジオ」「ほっかほか今朝の聞くサブリ」取材放送

NHK松山放送局(2025年11月) - 「ホッと!四国」取材放送

雑誌FRaU(2025年12月) - 記事掲載

読売新聞(2026年1月) - 「読売新聞オンライン」記事掲載

FM香川(2026年3月) - 「こけ枝の部屋」取材放送

Analytics

— アナリティクス —

2025年度は、受賞やラジオ・テレビ・新聞・雑誌などでの掲載を通じて、クリーンオーシャンアンサンブルの取り組みがより広く社会に届いた一年となりました。

情報発信面では、公式ホームページPV数は58,648、SNS総フォロワー数は約4,360名、プレスリリース発信数は44件、プレスリリースPV数は31,633となりました。ホームページPV数は前年度を下回った一方で、SNS総フォロワー数、プレスリリース発信数、プレスリリースPV数はいずれも増加しており、発信の量と到達の広がり両面で前進が見られました。

ホームページPV数

58,648

(前年68,400から9,752減少)

SNS総フォロワー数

約 **4,360**名

(前年末から約460名増加)

プレスリリース発信数

44件

(前年37件から7件増加)

プレスリリースPV数

31,633

(前年27,654から3,979増加)



Merci beaucoup



ご支援、ご協力をお願いいたします

サポーター

月1000円～の寄付で海洋ごみ
問題解決への挑戦を支援する
マンスリーサポーターへのご
参加お願いいたします!



各種SNS等

フォローといいねで海洋ごみ
問題解決への挑戦を応援する
広報サポーターへのご参加お
願いいたします!



特定非営利活動法人
クリーンオーシャンアンサンブル
<https://cleanoceanensemble.com>

〒761-4425 香川県小豆郡小豆島町坂手甲986番地
Tel: 070-8360-9815
Mail: info@cleanoceanensemble.com